

新刊紹介

実務に役立つ書籍の紹介

文献委員会委員 松波 克英（弁護士）

既にご案内のとおり、宗教法に関する文献の中から、新刊紹介をしていくことになりました。

今号においては日本語文献目録作成の作業の中で、最近出版された書籍のうち宗教法関係の実務に役立つと思われる書籍の何冊かについて簡単なコメントを付して紹介させていただきます。今後も「宗教法」発行の度に紹介していきたいと思いますので、紹介したい文献（著書・論文）がございましたら実務に関連するものに限らず、自薦・他薦いずれでも結構ですので、事務局宛お知らせ下さい。

藤井正雄・長谷川正浩編

『Q & A 墓地・納骨堂をめぐる法律実務』新日本法規出版（2001年）
5145円（税込）

本書は、墓地問題についての権威であられる藤井正雄大正大学教授と全日本仏教会の顧問弁護士を長年務めておられる長谷川正浩弁護士の編集にかかる実務書である。2001年に出版され、実務家にも多数利用されており、2005年に法律改正などに伴い補訂版が出された。

執筆者は、弁護士が中心であるが、墓地・納骨堂について発生しうる問題を網羅的に取り上げているとともに、その説明もコンパクトにまとまっている。

横田睦・島崎昭・喜多村悦史・鈴木富七郎

『Q & A 霊園・斎場 運営の実務』新日本法規出版（2004年）

5355円（税込）

横田睦全日本墓苑協会、島崎昭日本環境斎苑協会理事長、喜多村悦史元厚生省生活衛生局企画課長、鈴木富七郎弁護士という、いずれも墓地などの問題の専門家の共同執筆によるものである。

墓地・納骨堂などの霊園、火葬場の運営と管理にかかわる問題点を、基本的な問題から実務担当者が必要とする本書特有の問題（これまでの書籍では取り上げられていないような問題も多い）に至るまで78項目に渡り取り上げている。

この分野では、過去の対応事例や情報が必ずしも整理されていないことから、これを活用できるように整理されたもので、入手しにくい多数の書式や資料がふんだんに公表されており、実務書としては貴重なものとなっている。

前掲『Q & A 墓地・納骨堂をめぐる法律実務』は、コンパクトに問題点がまとめられているのに対して、本書はかなり専門的な事柄にも踏み込んだ内容になっている。

安武敏夫・長谷川正浩・棚村政行・戸渡速志編

『宗教法人の法律相談』青林書院（2000年）

3150円（税込）

宗務行政担当者、研究者、弁護士など、宗教法人の法律関係や実務に携わって精通している方々が執筆されている。基本的な問題から具体的な実務上発生しやすい問題まで広く58項目のテーマを取り上げられている。近年問題になっている宗教被害の問題や平成7年の改正によって新たに生じた問題についても精力的に取り組まれている。

長谷川正浩・野生司祐宏編

『Q & A 宗教法人をめぐる法律実務』新日本法規出版（2004年）

加除式

宗教法制研究会（代表世話人・善家幸敏愛知学院大学名誉教授）のメンバーが中心となり、非会員も含めて大学教授、弁護士など37名の執筆者による。

300項目にわたる設問は実務に密着しているとともに様々な場面を想定したものになっている。その内容は、制度全体の基本的な事柄から始まり、設立、運営(機関・事務・財産・事業・規則変更)、税務など、従来から取り上げられている点についてもかなり網羅的に取り扱われている。さらにその周辺の法領域に重なる問題についても数多くの項目を割き、新たな問題点として、平成7年の宗教法人法改正以降の書類の閲覧請求の問題なども取り込んでいる。

前掲『宗教法人の法律相談』は、コンパクトに問題点がまとめられているのに対して、本書はかなり専門的な事柄にも踏み込んだ内容になっている。